



AET2

Asian and Middle Eastern Studies Tripos, Part II

Monday 30 May 2016 09.00 to 12.00

Paper J14

Classical Japanese Texts

Answer ***all*** questions.

Write your number **not** your name on the cover sheet of **each** answer booklet.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 page answer booklet

Rough Work Pad

SPECIAL REQUIREMENTS TO BE SUPPLIED FOR THIS EXAMINATION

Shinjigen dictionary

Kojien dictionary

You may not start to read the questions printed on the subsequent pages of this question paper until instructed to do so.

SECTION A

1. Translate the following passage from an **unseen** text into English. [45 marks]

従事 函首 「ハウ

このごろさる人あり。物あきなひしに。他所に出ぬるそのひまに。妻何者にかころされけん。かばねばかりをのこして。くびをとりていにけり。此妻のしんるい。則此おとこをとらへて。女房をころせし。むこなりけりとて。則官にをくる。吏是をうけとりて。きびしくせめはたり。とひければ。がうもんのくるしみにや。たえかねけん。ミづからとがにおちけり。事きわまりしかバ。此者を従事の官なりし人に。わたされけ

Passage continued...

る。
従事此者をうけとり。事のやううたがハしくおもひ。まづ此者を。シバラくさしをきて。いま
ひとたび。きハめたづね申べきよし。申あげしかバ。太守すなハち従事が申むねに。まかせら
れしかハ。則ほう「九オ ないの人家。又ハ行人とうにいたるまで。あまねくそなへ。近日人の
はうふりしける。はか所とうにいたるまで。一々其ところをたづねきハめ。人々になじりと
ひ。又何事にても。人の見あやしめる事など。ありやといひてさま／＼にとひきハめければ。
一人の者あり。
此者申けるハ。それがしこのごろ。豪家にゆきしに。事をあぐる事あり。何事ぞととへば。た
ゞおちの人のしなれけりと申。夜もはや五更のはじめになる比。ひそかに凶器をかき出せり。
いかにもかろくして。中にハ物のなきやうにありしが。いづくのほどに。うづミてをきけり
と。事くハしくぞかたりけり。
やがて人をつかハして。かのうづミし所にゆき。ほり「九ウ おこして。見させたりければ。女
のくび一つあり。則此くびをもちかへりて。かのかばねにつきあハせて。かのおとこをよび
よせて見せければ。是ハわがつまにあらざと申。やがてかの豪家をよび出して。せめとひけれ
ば。一人の嬬子をころして。そのくびをバ。はこに入れて。はうふりをして。かバねをバ。かの
所にかへをき。かのあきんどの妻をバ。ひそかにかくしてぞをきたりけり。かの豪民ハ。棄市
のとがにをこなハれ。なんぎにあひたりしむこハ。ゆるされ侍りき。是又五代の時の事とかや

Tōinhiji (Kanazōshishū to kenkyū 2), pp. 189-90.

(TURN OVER)

SECTION B

2. Identify passage A and passage B, both taken from **seen** texts, and comment upon the intertextual mechanisms at play here. Translate passage A into English. [35 marks]

Passage A

[1] むかし、有原ありはらの中将ちゆうしやうなりひらと申まうすは、平城ぜい天皇第三の王子、阿保親王あほうしんちやうの御子ごしにて五男ごなんにて
 ましますにや、在五中將ごちゆうしやうと申まうす奉る。然るに業平なりひら、仁明にんみやう天皇の御宇ごいうにいとまかしこき勅ちよくをう
 け、大内おほうちにおゐて元服げんぷく（うゐるかふむり）有あり。春日かすがの祭まつりの勅使ちよくしとして、すきびたいのかぶり（ひ）をゆ
 るされ、うゐるかぶりし給たまはひ、こと更春日さらかすがの里さとを領知りやうち（しるよし）として給たまはりしが、あるときな
 りひら、鷹狩たかがりと号ごうし彼里かのへおはしましけるに、そのさと、いとうつくしき（なまめける）をん
 な兄弟あねいもと（はらから）住給すみふを、物荒あれたるかきほ（ま）ののすき間まより、ほのかに見給みひ（かいまみ
 てけり）、かゝるふるさとに、愛いとうるはしき女をんなすみける事、あやしくも又あはれにもおぼえさ
 せ給たまはひ、心こゝろまよはせ給たまはふ（こゝちまどひにけり）が、めしたるかり衣ぎぬのすそを切きりて哥うたを遊あそば
 しかゝせ給たまはひて、つかはされける。その衣ころもはしのぶずりとなんいへる衣ぎぬなりければ、御哥ごうたに、
 ▲春日野かすがのの若むらさきのすり衣ころものぶの乱みだれかぎりしられず
 此哥このうたの心こゝろは、先所まへの名なによせて「春日野かすがのの若むらさきのすり衣」といひ、さて又下の句、

「しのぶのみだれかぎりしられず」といふ心は、しのぶずりの衣とて、其紋かぎりなくみだれたる物なり。そのごとくそなたを見しよりおもひそみ、忍ぶ心もみだれつゝ、かぎりしられぬとなり。女を若むらさきにたとへ、若むらさきのすり衣といへる序哥なり。ひとへにしのぶのみだれといはんため也。又「しのぶずり」と云事は、すゑ返哥にするす。

かくよみてつかはされければ、御哥の心おもしろくやおぼしけん、返哥を遊ばし、鷹がりのさきくまで、あなたこなた、たづねさせてつかはされし御返哥に、

▲みちのくの忍ぶもぢずりたれゆへに乱れそめにし我ならなくに

此心は、みちのくのしのぶのさとに、「もぢずりの石」とて、石有。その石に、山あいとてあをき草あり、其くさをしぼりかけて、衣にすり付そむるを、しのぶのもぢずりといふなり。其衣のもん、かぎりなくみだれてそまれる也。なりひらの御哥、そのしのぶずりのやうに、心のみだれそむるとよみ給ふは、たれゆへにみだれそめしぞ、我身ごときにては有まじ、と、ひげをし給ふ心也。

此哥は河原左大臣源融の御詠哥なり。とほるのよませられし心は、「みちのくのしのぶもぢずりのごとく、わが心の乱れそめしはたれゆへぞ、みな是そなた故ぞ、わが心は本来すなほにして、みだるゝはずはなけれども、我ならで君ゆへ也」とうらみてよませられしをひきかへ、哥の返哥にあはせたまふ事、女の作意也。

(TURN OVER)

Passage B

むかし、おとこ、うゐかうぶりして、平城の京、春日の里にする
よしして、狩に往にけり。その里に、いとなまめいたる女はらから
住みけり。このおとこ、かいまみてけり。おもほえず、古里にいと
はしたなくてありければ、心地まどひにけり。おとこの着たりける
狩衣の裾を切りて、歌を書きてやる。そのおとこ、しのぶずりの狩
衣をなむ着たりける。

1 春日野の若紫のすり衣しのぶのみだれ限り知られず
となむ、をいつきていひやりける。ついでおもしろきことともや

思けん、

2 みちのくの忍もぢずり誰ゆへにみだれそめにし我ならなくに
といふ歌の心ばへなり。昔人は、かくいちはやきみやびをなんしけ
る。

3. Identify and translate this passage taken from a **seen** text. Comment on the 'translation strategies' applied by the author. [20 marks]

饅頭

有_ニ食_一士_ハ餒_ク甚_シ。見_ル市_ニ有_リ饅_ト頭_者。偽_テ大_ニ呼_ビ仆_テ地_ニ。王_人驚_カ。
 問_フ其_ノ故_ヲ曰_ク。吾_ノ性_ハ畏_ル饅_ト頭_ヲ。王_人因_テ設_テ數_ト十_枚于_テ空_ノ室_中。
 而_チ閉_チ士_ヲ于_テ内_ニ。冀_ム相_ト因_テ以_テ為_ス一_ト笑_ヲ。久_ク之_レ寂_ク如_ク乃_チ。敝_レ門_ヲ見_ル。
 其_ノ博_ク食_テ過_リ半_ニ。詰_メ之_ヲ則_チ曰_ク。不_レ知_ル何_ノ故_ヲ。忽_チ不_レ覺_ル畏_ル。王_人怒_リ。
 叱_リ曰_ク。汝_ハ得_ル無_ク尚_ホ有_リ他_ノ畏_ル乎_ト。曰_ク。無_ク他_ト。此_ノ際_ハ只_シ畏_ル苦_ク茶_ヲ兩_杯。
 碗

刪笑府

五

END OF PAPER